

# 図書館だより



no.246

2024 (令和6) 年 3月 14日 発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山 1 番地

Te1 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<https://www.library.fcs.ed.jp/>



## 展示のご案内

### ◆企画展示 週刊朝日:100年を振り返る

日本で最初に創刊された総合週刊誌の『週刊朝日』が創刊から101年の2023年で休刊となりました。当館所蔵の『週刊朝日』の中からご紹介します。

展示期間：2月28日(水)から4月3日(水)まで 展示場所：企画展示コーナー

### ◆時事展示 防災について考える ～東日本大震災から13年～

東日本大震災から13年が経過しました。防災や自然災害について書かれた本を展示します。

展示期間：2月28日(水)から4月3日(水)まで 展示場所：公開図書室・蔵書検索コーナー横

### ◆ミニ展示 知って・備える！

いま改めて知っておきたい防災や自然災害について特集のある雑誌をご紹介します。

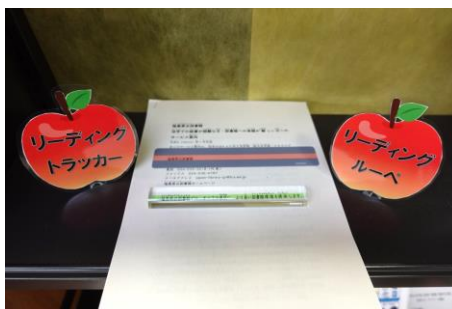
展示期間：3月8日(金)から5月1日(水)まで 展示場所：調査相談カウンター横・雑誌展示コーナー

### ◆ミニ展示 読書バリアフリーの世界

誰でも本が読める読書バリアフリー社会を実現するための、様々な方にとって読みやすい資料や当館で行っているサービスをご紹介します。

展示期間：2月28日(水)から

展示場所：公開図書室・インターネットコーナー横



## 資料の返却はお済みですか？

年度末・新年度の入学・卒業・就職・転勤などに伴う転居時に、これまでお借りになっていた資料の返却漏れや紛失が毎年発生しています。借りていた資料の返却をお忘れないよう、お気を付けください。

※閉館時間後・休館日にご返却の際は、図書館正面玄関横の「返却ポスト」をご利用ください。

※福島県立図書館で借りた資料を、県内の一部の図書館・公民館図書室で返却することも可能です。

(福島市立図書館など、返却できない図書館・室もあります。詳しくは当館ホームページでご確認ください。)

# 新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

## 人文・自然・社会

『ChatGPTは世界をどう変えるのか』佐藤 一郎／著  
中央公論新社 2023.12 007.13/サイ 23Z

2022年11月にサービス開始して以来、ChatGPTに代表される生成AIは、大きな話題になると共に様々な議論も巻き起こりました。著作権や個人情報の問題、人間が仕事を奪われるのではないかと懸念。本書では、そのような問題について生成AIの仕組みや効果、そしてリスクについて交えながら解説します。「AIが人類の能力を上回る(シンギュラリティ)」よりずっと手前、AIが私たちの社会にどのように導入・受容されていくか考えることができます。

『自分のために料理を作る 自炊からはじまる「ケア」の話』山口 祐加／著, 星野 概念／対話に参加 晶文社  
2023.8 596.04/ヤユ 238

「料理を作る」といっても、料理を仕事にしている人、家族のために料理を作る人など様々ですが、本書では自炊をする、つまり“自分のために料理を作る”人について取り上げています。料理というのはそもそも、掃除や洗濯などの他の家事と比べてハードルが高いそうです。それは何故なのでしょう？ 普段料理を作る人もそうでない人も、料理について改めて考えるきっかけになりそうな一冊です。

『ツレが「ひと」ではなかった 異類婚姻譚案内』川森 博司／著 淡交社 2023.12 388/カ 23Z

民話の中には「異類婚姻譚」というものがあります。字の通り、人と人ではないもの(異類)が結婚する話(婚姻譚)です。こうした物語は世界各地に存在し、その土地の文化を交えながら語り継がれてきました。本著では、異類婚姻譚を大きく三つに分類し紹介するとともに、これらの物語が持つ意味合いと現代の人間社会への影響を考察します。

## 児童・児童図書研究

『教室を生きのびる政治学』岡田 憲治／著 晶文社  
2023.4 311/オ

「人間社会の縮図」ともいえる場所、教室。本書はそんな教室で毎日を過ごす中高生に向けて、政治学者である著者が「政治学で学校生活をサバイブ」する方法を伝授してくれています。

特徴的なのは、「政治学」という中高生には嫌厭されてしまいがちなテーマを、中高生の日常に置き換えて解説している点です。たとえば、「主権者」という言葉を「人任せにしないで状況判断しながら生きる人」と置き換えたり、「社会」という言葉を「あるていど信じられる他人のいるカタマリ」と置き換えたりしています。その置き換えがあるだけで、遠い存在だった「政治学」がぐっと身近に感じませんか？

中高生はもちろんのこと、そんな中高生たちを日々見守り、理解したいと思っている大人たちにもぜひ手に取ってほしい一冊です。

## 雑誌・新聞

源氏物語とその作者である紫式部について特集された雑誌をご紹介します。どうぞご利用ください。

『婦人画報』Z051/F5 2024.3(NO. 1448)

特集「私の源氏物語 雅を愛でる、旅をする」

『サライ』Z051/S16 2024.2(第36巻第2号,  
通巻705号)

特集「紫式部と『源氏物語』を旅する」

『歴史評論』Z0205/R1 2024.1(通巻885号)

特集「〈紫式部〉を歴史から読み解く」

『歴史街道』Z210.05/R6 2024.2(通巻430号)

特集「紫式部と藤原道長 古代日本の頂点をきわめた二人」

『芸術新潮』Z705/G1 2023.12(第74巻第12号)

特集「21世紀のための源氏物語」

## 地域

『おらほのふぐすま』鈴木 渉／写真・文 本の泉社  
2023.11 LS748/S32/2

2013年から埼玉と福島を往復し、福島の様子を発信し続けてきたアマチュア写真家があります。この本は10年間の福島での取材を記録した写真集です。震災の被害に立ち向かう人々や復興に携わる人々の自然な表情を切り取った写真には、長年福島に寄り添い続けてきたからこそ引き出すことのできるあたたかみを感じます。現地での復興の様子を発信することで、福島への負の側面を払拭したいという思いがあったことが、本書のあとがきにも綴られています。

どこか懐かしさも感じられる「素顔の福島」。ぜひお手に取ってご覧ください。

『ふくしま碑紀行』植田 辰年／著 歴史春秋出版  
2023.9 L291.09/U7/1

著者は、昭和以降に建立された碑に焦点を当てて訪ね歩き、県内と宮城、岩手まで、あわせて150か所近くを訪れたといいます。本書は福島県内の33の碑を取り上げ、写真とともに紹介していきます。

顕彰碑、慰霊碑、記念碑、頌徳碑など、碑が建てられた理由や内容は様々ですが、どの場所にも、石に刻んでまでも後世に伝えたい、伝えなければならないとした人々の思いが残っているように感じられます。感謝や哀切、郷愁といった気持ちが確かに伝わってくるようでした。

様々な碑を巡る旅に同行しているような一冊です。